

平和のポスターをつくる

2015.5.20 結城市 佐藤 忠克

「平和を守ろう」「憲法9条を守ろう」「子どもたちには愛と平和を」といった趣旨のポスターは、和紙半切1/3の大きさに墨と顔彩で描いています。700枚を超えたが少々中断になっていました。しかし、日本の政権は、沖縄の辺野古に新基地を民意など一切顧慮することなく、ジュゴンが住み、サンゴ礁の広がる海を壊し、沖縄を壊して建設が進められています。また沖縄を切り捨てるのです。私は沖縄の人たちと繋がっていたいと思い、再びポスターを描き始めました。

私がポスターを描き始めたのは、井上ひさし氏や大江健三郎氏等によってつくられた「九条の会」（発足は2004年）のアピールの結びで、「一人ひとりができる、あらゆる努力を、いますぐ始めることを訴えます」と呼びかけられたことによるのです。私がポスターを描くことは、私ひとりでもできる平和を訴えることだと思ったのです。

初めの頃は、様々な平和を呼び掛ける集会や講演会、各地の九条の会などに出かけて行って無償で配ったりしましたが、私の負担も少なくなき、集会などの主催者の財政に益すればよいことだろうと、有償で求めてもらうことが多くなりました。そうこうするうちに栃木県の九条の会では6枚のポスターで5枚の絵ハガキセットを作ってくれました。2000部ほどだったようですが、幸いほとんど捌けたようです。

ポスターの絵柄は20種程度だったでしょうが、枚数が増えるにつれ、文字による表現の重要性を感じるようになってきました。絵と文字と伝えられる内容は違うのが当然です。そんなことから、俳句、短歌、川柳、詩へと興味が拡がり、個展（このところ家内と二人展の形ですが）にもこのジャンルの作品を並べるようになりました。

和紙（実際は中国の紙が多いのですが・・・）の中でも、麻紙や楮紙が絵には使いやすいので多く使っています。炭は松煙墨ですが、最近の墨液はかなり改良され、磨った墨には劣るものの、安易に使い、色も悪くないので多用しています。裏打ちにはアイロンで簡単に扱える裏打ち紙を利用することが多いです。ポスターなので屋外に貼ってもらいたいのですが、和紙ですので、そのままでは無理です。ビニールなどで覆ってもらう必要があります。多くの場合室内で利用してくれているようです。ある人の報告ですが、地域の有力な保守系の人の家では玄関を入ったところに額装されて飾ってあったとのことでした。作者としてはうれしい限りです。絵柄は30種にならないでしょう。文章の種類はもっとあるかもしれません。

私のこうした仕事が、どれだけの実効あるものなのかはわかりませんが、画文と一緒に描（書）かれていた頃のありように戻ってみる試みでもあると思っています。

感想やご意見がありましたら是非お聞かせください。